



▲別ショットの写真

今月の表紙は、4月7日に行われた豊坂小学校の入学式後、新1年生が教室に移動し、先生の話に聞き入っている表情を撮影したものです。新しい世界への第一歩を踏み出し、ドキドキ・ワクワクでいっぱいの子どもたち。目がキラキラ輝いています。

## 今月の表紙

# みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課広報広聴G  
E-mail:kikakujoho@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線334)  
FAX63-5139

# こうたの民話

## 京が峯

むかしむかしのことです。やまとたけるのみことは、いずもの国(島根県)のいずもたけるをやっつけ、意気揚々とふるさとのやまとの国(奈良県)に帰られました。けれど、ほっとする間もなく、お父さんのけいこう天皇から今度は「東の十二の国々の命令に従わないものどもをやっつけろ。」と命ぜられました。

みことは途中、伊勢神宮にみえるおばさまのやまとひめのみことなどに会われたりして東に進みました。道すがら、乙見が原(岡崎市)にも立ち寄られ、土地の豪族の娘との間に一人の皇子を授かりました。そして、乙見の皇子と名付けました。この乙見が原からせまい山道をこえてここ坂崎の地

に立たれました。見ればあみだ如来が立っておられるような美しい山があるではありませんか。みことはさっそくこの山に登ると、菱池の沼の向こうには海をへだてて伊勢の山も見えました。伊勢の山の向こうにはあのなつかしいやまとの国があることでしょう。胸にせまるものがありました。それからこの山を京が峯と呼ぶようになりました。

長嶺の神戸の地に一つの社が立てられました。これが今の三村神社だということです。また坂崎の地には乙見の皇子ゆかりの皇子田や皇子ヶ入という地名も残っています。

【こうたの民話 より】

## みんなの作品展!

平成25年度 健康のまちポスター習字展からのセレクトです



さいとう ゆうや  
齋藤 佑哉 くん



すやま ゆみ  
陶山 結光 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、企画政策課情報Gまでお送りください(デジカメ写真の場合はメールで。)

## 「べへ」

「あんだ、最後まで頑張って走るだよ!」

明日は、小学校の運動会。息子の順位が気がかりなお母さん、それをなだめたつもりのおじいちゃん……

「順番なんどーでもいーだわ。どべへにならじや」

「順位なんてどうでもいいのよ。べりにならなければ」  
という意味です。

最下位、最後尾を表す言葉は、「べり」のほか、「どんじり」や「けつ」など挙げればきりがありませんが、広く西日本で使われているのが、「どべ」です。「べり」は、「どんじり」の「しり(尻)」が転じたものといわれ、さらに転じたのが「べり」だそうです。また、「どべ」ではなく「どんべり」という地方もあることから、「どんべり」「どんべり」「どんべ」となり、これがさらに転じて「どべ」となったといえます。

でも、「どべ」を「べと」ということがあります。これは、「どべ」をひっくり返したのではなく、「一等、二等……」と上位から数え、最下位を「別等」としたことからきたともいわれます。だとすると、「どべ」のほうは「べと」をひっくり返したことになります。どれが本当なのか、よくわかっていないのが本当のようです。

(文) ちんぎん



青春トークリレー  
第254走者

なおい 直井 まりな さん

大草区在住 19歳

職業 会社員

身長 157cm 血液型 O型

好きなタイプ ポジティブな人

好きな芸能人 清水翔太

地元の高校を卒業して社会人となって早1年になります。仕事は、財務部で経理を担当しています。責任は重大ですが、やりがいのある仕事です。一日中パソコンに向かっているため土日の休日は、ボードに行ったりボウリングに行ったりとできるだけ身体を動かすように心掛けています。

1月の駅伝大会に兄が出場したので応援に行ったところ小さい子どもから大人までが一緒になって一生懸命走っている姿にとっても感動し、幸田町は良いところだなと改めて感じる事ができました。

幸田町を盛り上げる為にもっと若者たちが参加できるような行事を増やして行ってほしいです。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。希望者は企画政策課まで。



わんぱくどより

「某日某日」  
「坂崎保育園」

ドッジボールで前向きな気持ちを持てる

昨年、憧れの青組がドッジボールで楽しそうに遊んでいました。その姿に刺激を受け、赤組の男の子たちも取り組み始めました。しかし、青組が「一緒にやろう」と誘ってくれても「青組、強いもん…」と抜けてしまい、一緒にやろうとはしませんでした。そんな日々が続きましたが、赤組全員でドッジボールが楽しめるようになって

きたころ、青組さんからドッジボール対決の申し込みがありました。子どもたちは対決したい気持ち半分、不安な気持ち半分で「うん、いいよ。」と受けました。対決当日、始めは「キャー、キャー」と言いながら逃げの一手でしたが、徐々にボールを拾って投げる事ができるようになり、ついに、青



組を当てる事ができました。この日をきっかけに、気持ちが前向きになりドッジボールに自信をもって取り組めるようになりました。ふと気が付くと、桃・空組もドッジボールを始めていました。まだまだ先ですが、対決できる日が楽しみです。

編集者のひびき

▼人事異動により、3年間担当した広報担当を異動となりました(泣)。カメラの使い方から取材方法など何も知らない僕を、皆さんはいつも温かく迎え入れてくれて、うれしかったです。たくさん写真が撮られて、楽しかったです。いろいろな人に出会えて、幸せでした。振り返ると、言葉にできない感謝の気持ちがあふれてきます。中には写真を撮られたくなかったなあなんて人もいるかもしれませんが、実は僕も昔、広報こうたの表紙に掲載していただけ、ちょっと恥ずかしかったです。思い出があるのですね。それでも、取材先の皆さんはいつも笑顔で迎えてくれて、本当にうれしかったです。まだまだやりたいこともありますが、これからは次のステージに進み、また一つ大きくなった姿で、皆さんに恩返しができるかなと思っています！

各学校や保育園のみんなも、一緒にたくさん遊んでくれて、一緒にたくさん笑ってくれて、ありがとうね。みんなのおかげで、いつも楽しかったよ！君たちがステキな大人になる姿を、カメラマンのおじさんは楽しみにしているよ。読んでくださっている人へ、最後にコッソリ。僕は、幸田町が好きで、幸田町の皆さんが大好きです。内緒だよ。笑(´▽`)

新しく広報担当になった(K)です。精いっぱい頑張りますので、よろしくお願ひします。



◀ 編集者が表紙の広報こうた(当時10歳)